学会記事

◎ **第6回理事会**（昭.31.11.16）出席者：平山会長，東，飯吉，高坂，平井，丸安，中安，逸見，米屋各理事。議事：1）10月中の行事その他報告，2）昭和31年度土木賞委員会の構成について，3）日本学術会議選挙開票立会人に米屋理事を推薦，4）JIS 金属部会鋼材の試験検査通則専門委員会委員に前回同様奥村敏恵君を推薦，5）1957年中に開催される国際会議については海外連絡委員会で検討すること，6）1957年度国際溶接学会年次大会への代表候補者として奥村敏恵君（私費）をJSC溶接研究連絡委員会に推薦すること，7）昭和32年度文部省科学研究費等分科審議会委員候補者推薦について，8）第5回国際橋梁構造工学会議報告講演会を11月30日開催について，9）土木振興方策について，10）日本学術会議第5部地震工学懇談会委員として東　寿，沼田政矩，矢野勝正，米田正文の4君を推薦すること，11）会員の入退会承認。

◎ **各種委員会**

1．第6回会誌編集委員会（昭.31.11.22）出席者：糸川，丸安正副委員長，森，林，安藤(代志村)，針ケ谷(代土屋)，松本（代伊藤），猪股，久保，岡崎（代川合），杉田各委員，中川書記長，岡本編集部員。協議事項：1）投稿原稿報告，2）原稿審査報告および新原稿審査委員決定，3）依頼原稿状況，4）土木賞について，5）1月号登載用として次のものを予定した。

吉田徳次郎：コンクリート標準示方書改訂について，岡　尚平：斜め格子桁橋の曲げモーメント計算法，井深　功：滲透性地盤上に築造した相模原貯水池，平井　敦他4名：国際橋梁・構造工学大会報告講演会要旨，平井　敦：欧米の吊橋，その他。

2．第3回論文集各部会（昭.31.11.5）a)第一部会：出席者：岡本部会長，山田，村上，三浦，安浪，久保，山口の各委員，丸安理事。議事：1）原稿審査，2）委員に山口柏樹君を追加，3）土木賞候補論文下調方について，b)第二部会　出席者：本間部会長，村，関，岩塚，林，吉川（代芦田）の各委員。議事：1）原稿審査，2）土木賞候補論文下調方について，c)第三部会　出席者：星埜部会長，石上，伊丹，市原の各委員。議事：1）原稿審査，2）土木賞候補論文下調方について。

3．第3回論文集部会長会（昭.31.11.12）出席者：星埜，佐島両部会長，久保，林，白石，春日屋，徳平の各幹事。議事：1）各部長からの経過報告，2）論文集39号登載論文決定報告。

3）論文集40,41号を次のとおり決定報告。

40号　村山朔郎・柴田　徹：粘土のレオロジー的特性について
41号　岩垣雄一・土屋義人：限界掃流力に関する基礎的研究

4）論文集42号登載論文を次のとおり予定。

西田義親：土の圧縮指数に関する一考察；小西一郎・小松定夫：箱桁橋の立体的応力解析；岩崎敏夫：越流頂余水吐の流量係数について；西村昭：道路橋の安全性に関する二三の考察；谷本喜一：粒体層の圧縮に関する一考察；岡元北海：合成箱桁橋の解法について；高瀬信忠：時系列論からみたわが国水文諸量の性格について；石原安雄：洪水追跡器の実例への適用について

4）土木賞候補論文下調方針の打合せ。

4．第6回会誌編集小委員会（昭.31.11.8）出席者：糸川，丸安正副委員長，奥田(代吉岡)，林，安藤の各委員，深谷幹事，岡本編集部員。協議事項：12月号編集につき最終的打合せを行つた。増大号で100ページの予定。

5．第6回抄録委員会（昭.31.11.6）八十島委員長，久野，小池，嶋，西沢，沼田，野口，堀井，山田，湯浅，渡部各委員，山口幹事，岡本編集部員。協議事項：1）12月号抄録8編を予定，2）12月号文献目録を報告，3）その他。

6．第8回耐震工学委員会（昭.31.11.7）出席者：沼田委員長，岡本，最上，友永，神谷(代高橋)，近藤，畠山（代松原），東の各委員，久保幹事。議事：1）岡本委員から9月29日万国地震工学会議報告会の際に協議した事項，すなわち日本学術会議内に地震工学懇談会を設立するよう坂，中原両氏が尽力し，次回を日本で開催するについての準備その他を具体的に協議することに進めたいとの決定した経過を説明，2）JSC第5部長から地震工学懇談会委員4名推薦方依頼に対し協議，3）強震計設置計画促進について岡本，近藤両委員から経過説明，4）岡本委員から9月30日地震検測の概要説明，**第9回同委員会**（昭.31.11.13）出席者：東，岡本，近藤，寺島，星埜，最上の各委員，久保幹事。議事：1）JSC地震工学懇談会委員を前回投票の結果により委員長から東，沼田，矢野，米田の4氏を理事会に推薦すること，2）1960年国際会議を日本で開催する場合の準備態勢，予算等について協議した。

7．第19回製図規格委員会（昭.31.11.9）出席者：福田委員長，佐島，高畑，水越(代佐藤)，村上，木原，深谷(代佐伯)，高橋の各委員，橋本幹事。議事：JIS原案9条～13条審議，**第20回同委員会**（昭.31.11.20）出席者：福田委員長，佐島，木原，菊池，高橋，深谷（代佐伯），水越（代佐藤）の各委員。議事：1）14条～20条（終）を逐条審議，第二読会終了，2）訂正原案を各委員に送付して意見を求めること。

8．第48回コンクリート鉄道構造物委員会（昭.31.11.20）出席者：吉田委員長，沼田，高橋，高坂，坂本，山内，大槻(代野口)，梅木(代小檜山)，尾崎(代天野)，三浦，杉田(代天野)，川口，松本の各委員。議事：2編2章20～24条の審議（第2原案）

9．海岸工学委員会（昭.31.11.21,神戸市において）出席者：本間委員長外各委員および幹事。議事：1）昭和31年度海岸工学講演会について報告，2）海岸保全施設小委員会および用語小委員会の経過報告，3）明年度講演会は一応名古屋を予定すること，4）明年3月で任期

満了の委員長改選について本間委員長から発言あり，次回委員会で相談すること， 5) 明年度文部省科学研究費に関する研究項目について協議， 6) 英文報告印刷について。

◎ 講演会および講習会

1. 第3回海岸工学講習会（昭 31.11.21～22，神戸商工会議所一階大ホールにおいて）参加者約400名。講演題目および講師。

1) 近年日本沿岸に来襲した高潮について(宮崎正衛)，2) 波に関する台風の特性および沿岸流の分布について(真嶋恭雄)，3) 利根川河口の気象と潮位偏差(富永正照)，4) 新潟県鯖石川河口の変遷に関する研究（井口昌平，5) 円形島による波浪の回折(田中　清)，6) 孤立波の砕波とその波圧について(林　泰造)，7) 明石海峡による播磨灘と大阪湾との海水交流について(岩垣雄一)，8) 海中の拡散と混合――汚水処理の基礎資料（市来　誉)，9) 構造物に作用する波力(浜田徳一)，10) 防波堤に及ぼす砕波の圧力について(永井荘七郎)，11) 新潟海岸の波と流れについて(高橋淳二)，12) 沿岸における潮流について(溝口　裕)，13) 実体写真観測による砕波帯の波の性質について(井島武士)，14) 波浪の間接観測法と直接観測法との比較について(青島栄末)，15) 海岸堤防の形状特性ならびに陸岸への遡上(佐藤清一)，16) 空気防波堤について(栗原道徳)，17) 海岸法と海岸工学(中道峯夫)，18) 波による海浜の砂移動(篠原謹爾)，19) 砂堆について(足立昭平)，20) 苫小牧港の漂砂について(第一報)（白石直文)，21) 岩船港の漂砂とその対策について(吉武公夫)，22) 導流堤に関する模型実験による考察(久宝　保)，23) 明石海峡北岸の浸食調査について(岩垣雄一)，24) 海岸水制の効果に関する実験(堀川清司)，25) 高知港口，種崎海岸の浸食防止工事について(辰巳寿男)，26) 江津港海岸の欠潰後退とその対策(森安千秋)．

終つて神戸港見学のため午後3時半からメリケン波止場より港内巡航船に分乗して港内を一巡し，第三港湾建設局施工による第8突堤工事状況等を視察し，盛会裡に会を閉ぢた。

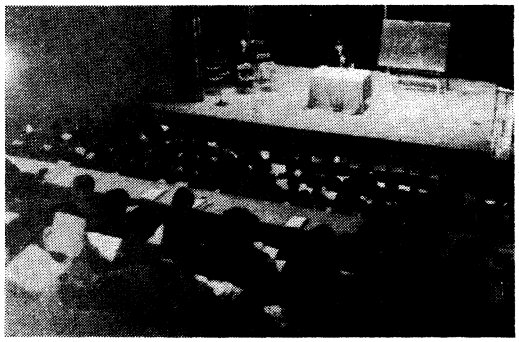
2. 風に関するシンポジゥム（昭 31.11. 12～13）聴講者：約100名，東大理工研において6学会共催で開催，講演数 24，映画〝台風の眼〟を上映有意義に終了。

3. 改訂コンクリート標準示方書講習会（昭 31.11.28～30，虎ノ門共済会館において）昨秋からコンクリート示方書改訂委員会で鋭意審議された結果，さる9月成案を得たので，その改訂の趣旨をできるだけ多数の会員に周知せしむるため講習会を企画した。最初聴講申込みの出足が鈍かつたので，一寸心配であつたが締切期日が切迫すると俄然申込殺倒し，忽ち定員800名を遙かに突破し，その対策に頭を悩まし，やむを得ず非会員の聴講をお断りして会員優先としたが，なお超過した結果となつた。

写真—1 講習会場受付風場

写真—2 平山会長の挨拶

写真—3 超満員の講習会場



28日は早朝から聴講者が殺倒，定刻9時には会場はほぼ満員となり，なお場外に100名以上詰めかけ，何とかしてくれとの状態であつた。折角遠方から参加された会員を断るにしのびず立席を承諾の上全員を収容したのである。学会の講習会として初めての現象で，斯界のためまことに慶賀にたえないが，会場が狭く聴講者諸君に不便を感じさせたことは申訳けない次第である。3日とも快晴にめぐまれ，吉田委員長の特別講演にはじまり，国分，谷藤，川口，関，丸安の各講師が熱をこめ，しかも全聴講者にわかりやすく説明したので，聴講者は皆満足したようであつた。第2日目の映画は，山岳道路の機械化施工実況(日本国土開発ＫＫ提供)，福島県上松川橋 PC 橋の施工実況（オリエンタル コンクリートＫＫ提供)，観測ロケット実況(東大生研提供)，コンクリートの施工(ACI および APCA の製作，富士物産ＫＫ提供）の4編で，非常に興味深く観賞することができた。30日11時20分丸安講師のコンクリートの品質管理を終えて終講式に移り，平山会長登壇，聴講者976名の代表として新潟県小千谷土木出張所　足立一君に修了証書を授与し，会長の閉会式挨拶をもつて講習会を終了した。参考のため職場別聴講者数は次のようであつた。

建設省関係（府　県　市）	380
運輸省関係（港湾・私鉄）	79
国　　鉄	134
通産省関係	71
建設業関係	188
学　　校	33
農林省関係	70
そ　の　他	21
計	976

3. 第5回国際橋梁構造工学大会報告講習会（昭31.11.30，国鉄八階映写室において）本年6月ポルトガルのリスボンで開催された標記国際会議に出席された下記の方々の報告講演会を開いた。聴講者約250名，会場に溢れるばかりの盛況であつた。講演題目および講演者は次のとおりであつた。

写真—5 国際橋梁構造工学大会報告講演会

第5回国際橋梁構造工学大会報告および欧米の吊橋について	平井　敦
フランスおよびスペインの橋梁	安宅　勝
欧米橋梁雑感	小西一郎
欧州におけるコンクリートおよびプレストレストコンクリート橋について	横道英雄
ポルトガル国立土木研究所およびトンネル工事その他について	三浦文次郎

◎ そ の 他

1. 海岸工学座談会（昭31.11.5，東大土木教室会議室）出席者：本間委員長外各委員および関係者 30 名。
経過：フランスのネールピック水理研究所 Marty 氏が来日中なので，同氏のテトラポットに関する講演に続いて実験および製作工程の映画を上映し，終つて各委員からの活潑な質疑と応答があつた。

2. 第1回土木懇談会（昭 31.11.14）出席者：平山会長，種谷副会長，東理事，小沢久太郎，釘宮　磐，高橋三郎，比企　元，堀江勝巳，松野辰治，三浦義男，吉田徳次郎の諸氏。協議事項：1）平山会長から本懇談会開催の趣旨を説明，すなわち a）科学技術庁参与千秋邦夫氏から土木方面の同庁に対する要求希望等を求められたこと，b）同国会に技術士法案が提出されるについて公正な立場にある学会の活動，c）技術の海外進出の問題，2）従来学会は technical department に主力を注いでいた感があるが欧米のように professional dept. の方面，すなわち，寒冷地における予算編成の時期，工事調査費を十分にして研究を進めること，consultant を尊重し育成する習慣を助長すること，権威ある請負契約書案の調製等に対し公正な立場にある学会が活動すること，3）日本の技術が立遅れているのは consultant 制が確立していないことに大きな原因があり，ひいては技術の海外進出の隘路となつている，4）技術士法の範囲において工務士法の制度ができれば以上の諸問題解決の端緒となる，5）以上いろいろ論議されたが諸問題解決のため委員会を設置して研究を進めることに意見一致して散会。

3. 日本水利科学訪中代表団歓迎午さん会（昭 31.12.3）谷口団長以下6名の方々は10月16日羽田空港を出発してから，広州，北京，吉林，長春，鄭州，三門峡，西安，成都，長寿，重慶，武漢，上海，南京，蚌埠，官庁などの各地水利事業を約40日にわたり参観され12月1日羽田空港に無事帰着された（伊藤氏のみ11月28日帰着）。

中華人民共和国は経済復興5カ年計画にもとづき1953年以来建設を進め，水利事業は重工業についで重点がおかれ，各地に大規模な水利事業を起してすでに完成を見たものもある。水利に関する教育，調査，研究もきわめて盛んで，これらに従事している中国の官吏は日本との資料交換を望んでいた。

代表団は各地において，工事，試験所を視察した際は必ず意見を求められ，最後に北京において総括意見を述べたとのことである。その際中国土木工程学会理事長茅以昇氏から当学会長あてのメッセージを谷口団長に手交せられたので，歓迎午さん会で披露された。

図—1 中国土木工程学会からのメッセージ

日本土木工程学会
長 平山復三郎 先生：
貴国水利科学訪華代表団来到北京
勝利
貴学会致候信附贈土木工程手册一本
謹代表中国土木工程学会会員向
敬愛的日本土木工程学会会員致
以衷心的感謝和深切的敬意。
中華人民共和国建国以来，所有土木
工程学会的会員们均在努力從事於和
平建設事業。
貴国水利科学代表团来訪，不仅對我
国水利建設事業方面提供了寶貴的
經驗；同時通過與代表团的座談也
有助於土木工程全面的技術發展
這對中日两国今後學術交流上确
實具有重大意義。
今後為了加强這種學術交流，我們對
两国間科學代表团的相互訪問，寄以
深切厚望。
謹祝日本土木工程學會的事業繁榮
及會員先生們在科學技術上取得日益
重大的成就。此致
敬禮
中国土木工程學会
理事 茅以昇

これを和文に飜訳したものは次のとおりである。

日本土木学会会長　平山復二郎先生

貴国水利科学訪華代表団は北京に到着，貴学会のメッセージと土木工学ハンドブック一冊を寄贈されました。謹しんで中国土木学会会員を代表し敬愛する日本土木学会会員に衷心からなる感謝と深い敬意を表するものであります。

中華人民共和国建国以来，土木工程学会会員はすべて平和的建設事業に努力従事して参りました。

貴国水利科学代表団の来訪はわが国の水利建設事業に貴い経験を提供されたばかりでなく，代表団との座談を通じて土木工事全般の技術発展にも寄与するところがありました。これは中日両国の今後の学術交流上まことに重大な意義を有するものであります。

今後はこの種の学術交流を強化し，両国間における科学代表団の相互訪問に深い希望を寄せるものであります。

謹しんで日本土木学会の事業の繁栄と会員各位が科学技術の面においてますます重大な成果をあげられますようお祈りいたします。　　敬　具

1956 年 11 月 23 日

中国土木工程学会理事長　茅　以　昇

◎ **関係協会その他の動き**

1. 建設省建築研究所では 11 月 28,29 両日，本年度研究発表会を開催した。

2. NHK では 11 月から毎週日曜日第二放送午後 7.15～7.55 に学界だよりを放送することになつたので，学会の講演会その他行事やおもなトピックを知らせて欲しいとの要求があつた。

3. **日本工学会課税対策委員会**（昭 31. 11. 28）前回の決定にもとづき加茂会長が大蔵省主脳との交渉経過の報告があり，とりあえず早急に陳情書文案を再検討の上，要路に提出するため，小委員会に一任することとした。

4. **都市不燃化同盟**では 11 月 28 日定例理事会ならびに上半期評議員会を開催した。

支一部ーだーよーり

1. **中部支部　第 8 回幹事会**（昭 31.11.13）出席者：鈴木幹事長以下 23 名，議事：1)支部大会経過報告，2)第 2 回公開講演会経過報告，3)中部支部講習会について，4)その他。**中部支部研究発表会**（昭 31.11.16，名工大土木教室において）経過：午前 9 時 45 分すでに会員約 80 名が参集し，A,B の 2 会場に分かれ，A会場　荒井評議員，B会場　鈴木幹事長よりそれぞれ挨拶があり，貴重な研究が次々と発表され，会員はその後約 120 名となり熱心に聴き入つて，午後 4 時盛況裡に終了した。研究発表題目および発表者は次のとおりであつた。

A会場：Slab Analogy による 2 次元弾性応力の解析（山内利彦）；格子桁の数値的解法(井上　肇)；繰返し引張りを受ける有孔材の疲労強度（岡林　稔）；濃尾大橋の応力実測結果（第 2 報）（松浦　聖）；ポストテンショニングによる PC 桁のプレストレスの測定（椛場重正，林　安雄）；大嵐橋（竣工，鷹巣橋と改名）工事（大石広志，大橋雄文）；旅足橋の設計（笹戸康夫）；木曽川橋梁改良工事（潜函基礎工事）（野村清）；AEコンクリートの性質（郡　道夫）；固練りコンクリートのコンシステンシー測定（奥田秋夫）；都市交通の特異性と名古屋市高速鉄道計画（伊藤太郎）；交通工学における輻奏問題の一般的考察(角田敏雄，加藤　晃）；パンチガードによる交通調査資料の整理（渡辺新三）.

B会場：平衡断面形水路に関する水理学的考察（土屋義人）；長き水平部を有する傾斜管圧力計の液面の動き（増田重臣，山辺春雄）；牧田川の模型実験（片岡　武，増田重臣，河村三郎）；小型開水路における指数型平均流速公式(増田重臣）；計算尺による管網計算法(酒井清太郎）；降雨時下水の量と質（宮脇俊夫）；井川ダム洪水吐の設計（加藤　正）；盛土の強さと法面の安定（水谷重喜，角田敏雄）；伊勢湾周辺の地盤沈下（三浦孝雄）；乱した粘土の強さ（角田敏雄）；四日市港第二埠頭修築工事（野上達郎）；軽桟橋における波殺板の一形式（小沢武夫）

2. **関西支部　欧米橋梁事情講演会**（昭 31.11.9，大鉄講堂において）演題および講師：欧米の橋梁事情について（安宅　勝，小西一郎）聴講者約 50 名。**学術講演会**（昭 31.11.11，京大工学部において）講演題目および講師は第 41 巻第 10 号お知らせ欄のとおり，4 会場に分れて講演され，聴講者約 120 名で盛況裡に終了した。

3. **中国四国支部　第 8 回学術講演会**（昭 31. 11. 27～29，高松市において）講演題目および講師：

ボーリング孔を利用せる現場透水試験法（小田英一）；動的荷重載荷による粘土の間隙水圧の伝播と分布（網干寿夫，門田博知）；中四地建における最近の溶接橋梁（藤吉三郎，瀬良　茂）；内湯ダムによる洪水調節（片野英二）；長大レール敷設上の諸問題（馬越道也）；直交異方性板理論による桁橋構造の自由振動に関する研究（米沢　博）；過大荷重を受けるコンクリートの短期クリープに関する一実験（荒木謙一，福井英吉）；潮水力発電所来島ダム遮水芯壁延長決定（長本隆夫）；斐伊川の流砂と河道設計（富山　勲，三村篤敬，緒方武人，時乗　浩）；波止浜水門ならびに堤防工事（川口正弥，渡辺儀三郎）；長府臨海工業地帯造成計画（嶋　文雄）；導坑掘進における一工程一発破作業（大久保紀生）；砂利河川の底質移動量の推進方法（久宝　保，田中要三）；砂利河川の底質の水理学的基礎性（久宝　保，田中要三）；大田川橋上部工工事（坂本正美，来栖司郎）；静荷重をうけた砂利層の諸性質（最上幸夫）；王泊ダムの嵩上計画（近藤正雄，村田清逸，田中　昭）；摩擦杭の支持力増強法の一考察（林　公重）；電気的相似法による滲透流の計測（小田英一，瀬川浩司，松波和彦）；五名ダム放水型式（鎌田　萬）；軌条の横強度（小林正宏）；原子力の利用（平原栄治）

以上の講演後映画を撮影，29 日には瀬戸内海の小豆島巡りを行い散会した。

一木保夫君	工博　北海道大学工学部助教授	昭和 31 年 8 月 18 日逝去	享年 42 才
長井　茂君	神戸電気鉄道ＫＫ常務取締役	昭和 31 年 9 月 22 日逝去	享年 53 才
田辺利男君	兵庫県淡路町において	昭和 31 年 10 月 6 日逝去	享年 69 才
白木原民次君	元内務技官　大分県中津市において	昭和 31 年 10 月 30 日逝去	享年 64 才

諸氏の逝去の訃報に接しました。本会は会員一同を代表し，紙上より深く哀悼の意を表する次第であります。

中央大学工学部長　工博　横井増治著　（最新刊）

土木施工法

A 5判　280 頁　上製函入　価 480 円　〒50 円

煉瓦工・石工・土木・浚渫・運般・岩石掘さく・地質調査・基礎工・井筒基礎・橋台・橋脚・隧道工・暗渠工等々の最新土木施工法全般を，機械施工をも含めて詳述したもの。新進技術者向き。

東北大学助教授　理博　小貫義男著　（最新刊）

土木地質

A 5判　384 頁　上製函入　価 550 円　〒50 円

地質調査・岩石地層の分布・岩石の風化・地質改善・ダムの地質・隧道の地質・地質沈下・地辷等に亘り，学理と実地を完全に融合させて詳述した好著。

九州大学助教授　内田一郎著　（最新刊）

道路工学

A 5判　284 頁　上製函入　価 450 円　〒50 円

調査計画から各種設計，土質，排水と凍上，地盤，路床，路盤，コンクリート，ブロック鋪装，防護施設，道路構造令案，JIS 等に亘り重要事項を洩れなく詳述。

熔接研究所編　大好評発売中!!

溶接工学テキスト

B 5判　264 頁　上製函入　価 800 円　〒50 円

溶接冶金概論・アーク溶接棒・シグマ溶接などのアーク現象・ガス溶接棒・火炎焼入法・ヘリアーク溶接法・溶接施工・溶接検査・溶接設計・溶接による変形並びに残留応力・脆性破壊と溶接の章に分け，9名の専門家が各々の最も得意とする部門を担当して理論と実技を完全に融合させて技術人の参考に供した。

工博　橋本規明著　（日本図書館協会選定）　2 版

新河川工法　A 4判 312 頁　1500円 〒70円

工博　沼倉三郎著　（日本図書館協会選定）

測定値計算法　A 5判 316 頁　480 円 〒50円

応用物理学会編　（日本図書館協会選定）　2 版

物理実験ポケットブック　B 6判 750 頁　1500円 〒60円

工博　仲　威雄著　（日本図書館協会選定）

実用溶接技術　B 6判 555 頁　1000円 〒50円

● 図書目録 1957 年度版進呈 ●

東京・神田・小川町3の10　**森北出版KK**　振替東京34757番

編集後記

年の瀬の慌しさのうちに12月号を校了にし，新年号の原稿の集まり工合のことなどを気にしながらも，ほつと一息というところです。

12月号に挿入したアンケートの結果を，本号会員欄に収録してみましたが，多くの方々の卒直な声を伺えて，編集上非常に参考となりました。これらの御意見をもとに新しい企画を立て，順次皆様の御要望におこたえしてゆくつもりです。

来年の1月号から学会誌の表紙の色が変ります。黄色地に黒文字の予定で計画を進めており，今後なるべく1年ごとにかえたい考えです。

本年中に寄せられた会員各位の御厚情に対しまして，編集委員一同心から感謝いたします。

良き年を迎えられますよう御祈り申上げつつ筆をおきます。

【奥田・林・安藤・後藤　記】

昭和 31 年 11 月分入退会報告（昭 31.11.～111.30）

1. 入　会　46 名（正 16，准 20，学生 8，特3級 2）
2. 退　会　5 名（正 2，准 1，学生 2）
3. 転　格　1088 名（准より正へ 1086，准より学生へ 1，学生より准へ 1）

会員現在数（昭 31.11.30 現在）

名誉員	賛助員	特別員	1級	2級	3級	正員	准員	学生員	合計	増加
20	30	31	76		120	6 662	5 032	1 229	13 200	41

昭和 31 年 12 月 10 日 印刷　昭和 31 年 12 月 15 日 発行　土木学会誌 第 41 巻 第 12 号

印刷者　大沼正吉　印刷所　株式会社 技報堂　東京都港区赤坂溜池 5 番地

編集兼発行者　中川一美　発行所　社団法人 土木学会　東京都千代田区大手町 2 丁目 4 番地

定価　100 円　振替 東京 16828 番　電話 (20) 3945・4078 番

学会誌へ投稿歓迎

学会誌への御投稿を歓迎しております。できるだけ全会員の方に利用して戴きたいのが学会誌の念願であり，固苦しくお考えにならずに気軽に投稿して下さい。特に御利用をお待ちしているのは次のような欄です。

口絵写真：毎号集めるのに骨を折つており，会員各位の傑作をお待ちしています。なるべく新しい未発表のものでキャビネ版を原則とし，別紙に簡単な説明をつけて下さい。採用の分には薄謝を呈します。

技術相談：質問の採否は委員会できめますが，簡単なことで案外お困りの場合が多いのではないでしようか。各部門ごとに専門家がおりますから，何でも遠慮なく御相談下されば順次誌上でお答えをいたします。

会員欄：別にむづかしい規定はありません。普段考えておられることを卒直にぶちまけて下さい。会員の方々のために広く門を開いてお待ちしております。

ニュース：編集委員会の内部に常置委員会を設け，取材をしておりますが，なかなか御期待に添えない現状です。とくにローカル・ニュースが乏しいので地方の方々は，どこでどんなことを，どんな方法でやつているかを簡単にお知らせ願います。この場合写真・図表をなるべくつけて下さい。

註：原稿用紙は学会へ御請求下されば無料でお送りいたします。 【編集部】

昭和32年度文部省科学試験研究費について

例年のとおり各機関の長は，その機関に属する者が代表者となつている試験研究の研究計画調書をとりまとめて，科学試験研究費補助金研究計画調書一覧2部を添えて，昭和32年**2月4日**（月）から**2月9日**（土）12時までの間に到着するよう，文部省大学学術局研究助成課（東京都千代田区霞ケ関3丁目）へ，お忘れなく提出して下さい。

論文集第40号・第41号発刊予告

著者実費一部負担による論文集として，次の二点が12月末日に刊行されます。

それぞれの論文の内容につきましては，本号論文要旨欄を御参照下さい。

定価は未定ですが，部数が少ないためお早目にお申込下さい。

京都大学工学部　村山朔郎・柴田　徹 共著

第40号　粘土のレオロジー的特性について　B5判 31頁

京都大学工学部　岩垣雄一・土屋義人 共著

第41号　限界掃流力に関する基礎的研究　B5判 38頁

日本建築学会の全機能を傾注した
現代建築技術至高の宝典！

建築学便覧

日本建築学会編

新しい時代に適応する建築技術の指針となるよう，日本建築学会が斯界の最高権威・執筆適任者300余名の該博な知識と豊富な経験とを結集し，5カ年に亘る歳月を費して完成したもので，建築技術の基礎から応用，更にその基盤となる都市計画・法令・建築企業・建築経営など関係分野一切を包含する空前の大便覧！

特価　三二〇〇円（特価〆切12月31日）

A5判 2430頁　定価 3500円
本文特抄淡クリーム上質紙
リネンバクラム上製本函入

空気調和ハンドブック

井上宇市著　B6判 284頁　定価 450円

空気調和設備の設計方法を解説したもので豊富な図表と例題により，実用中心に編纂されており，理論式から導かれたメトリックのデータを用いる等斬新な特色をもつ

運搬管理

南川利雄著　A5判 372頁　定価 650円

経営合理化の重要課題である運搬管理の在り方から実際手法までを凡ゆる角度から究明したもので，運搬の状況調査の具体的方法，その合理化方策等を懇切に解説する

新編　農業水利造構学　牧　隆泰著　定価 850円

理科年表 32年版　東京天文台編　定価 280円

丸善　東京・日本橋・振替東京5番